日本計量生物学会

ニュース・レター No.57

1996年10月

目次

巻頭言

日本計量生物学会1997, 98年度役員選挙について

第4回計量生物セミナーのお知らせ

関連学会等のお知らせ

日本学術会議関係報告

1996年度第3回理事会議事録

会計理事からのお知らせ

事務局からのお知らせ

その他

駒澤 勉 (統計数理研究所)

歲月人を待たず、月日のたつのは早いもので会長をお引き受けしてから、この暮には4年の任期が来ます。この間、計量生物学の創造性豊かな発展と活発で健全な学会活動を展開して行くことに努力してきたつもりですが、振り返ると今後に課題ばかり残したように思います。しかし、嫌になるまで頑張る「泊まり込みセミナー」は前会長の佐久間先生はじめ多くの理事の協力により、晩秋の時期に富士の裾野の地で開催が定着化しようとしており、思い出に残る学会活動の推進の一つです。この計量生物セミナーは当初、第1回の開催地の箱根の名称を取って箱根セミナーと呼ぶ案もありましたが、開催地は箱根と限らないので「計量生物セミナー」に落ち着きました。第2回からの開催地は、富士の裾野市に教育・文化活動の場として、オトウチャンで有名な大屋政子さん(テージン)が創設した素晴らしい環境の“富士教育研修所”となりました。今は笑い話ではありますが、昨年の第3回からテーマ「DNA多型と計量形質解析」でスタートを切った生物の部の多くの参加者は時が時であったので、富士と研修所のキーワードからオウム真理教のプレハブ施設を想像していたとか。行って見て似ても似つかない素晴らしい建物と周辺の環境で感動したとか。昼間は生物の部と臨床の部が、並行して別々な会場で議論し、夕食後、約130名の参加者全員が一同に会し、酒も加わったナイトセッションの議論から得る諸分野の相互のインパクトは多大な情報源となって会員相互に還元されているものと思われまふ。今年も11月9日(土)、10日(日)の両日、生物の部が「分子系統樹と生物進化」、臨床の部が「臨床検査値の諸問題」のテーマのもとに第4回計量生物セミナーが例年通り富士教育研修所を定席場として開催されます。今後

共に地道に息の長い、時代に即応した学際的セミナーであることを切望しています。

次に、学会活動として最も重要な交流の場である4月の年会ですが、1994年以降応用統計学会と本学会の間に、他の学会も視野に入れた統計関連連合大会実行委員会が発足し、双方の関係者の努力によって統一的プログラム編成、大会運営の一本化が図られ、軌道に乗りだし着実に両学会の統計科学情報の交流の場となってきています。今年は千葉幕張メッセで日本統計学会と日本行動計量学会の同時・共同開催が実現しました。しかし、問題も多くあったように思われます。

それぞれの学会には歴史的経緯、伝統と独自性、各学会の役員重複度は非常に高いが、役員が考えているほど、会員の重複度は高くなく、両学会の会員の参加行動は単独開催に近いものでなかったのではなかろうかという問題点など、同時・共同開催のメリットとデメリットの報告が待たれるところであります。これら報告は我々の今後の学会活動・運営面で大いに参考になるものと思われまふ。

これまでの学会は年会にしる学会誌にしる研究発表の場として、会員相互の交流が図られて来ました。しかし、今後は文部省科学研究費などを活用し、本学会の独自性を生かした学際的かつ先導的な大規模プロジェクト研究を本学会が企画・推進することにより会員相互の真の研究交流を図ることが出来るのではないかと思います。学会活動の良き環境作りは選ばれた役員の献身的奉仕だけで達成されるのではなく、役員を選んだ会員のご協力も重要です。これからは会員皆で本学会を盛り立て、21世紀の高度情報化社会に向けて計量生物科学の新しい展開をしようではありませんか。

学際的研究交流と奉仕

日本計量生物学会1997, 98年度役員選挙について

下記の要領で役員選挙を実施いたしますのでお知らせします。

日本計量生物学会1997, 98年度役員選挙要領

1. 本ニューズレターのp.5~9の被選挙人名簿から、理事を3名、監事を1名選出し同封の投票用紙に記入してください。なお、会費を2年以上滞納している人には、選挙権・被選挙権ともにありません。
2. 締切日は1996年10月31日です（消印有効）。
3. 次の投票は無効となります。
 - 1) 所定以外の用紙による投票
 - 2) 理事3名、監事1名を越えて記入した投票
 - 3) 投票者の氏名など余分な記入のある投票
4. 詳しくは、本ニューズレターp.4の選挙細則を御覧ください。

日本計量生物学会 選挙管理委員会
委員長 田村 義保
委員 橋本 修二

日本計量生物学会会則

(1996年度総会にて承認された改正部分を下線で示した)

[総則]

1. 本会は日本計量生物学会 (The Biometrics Society of Japan) と称する。
2. 本会の事務局は、原則として庶務理事の所属する機関におく。
- [目的及び事業]
3. 本会は生物学・医学・農学その他の関連分野における科学的研究を計量的・数学的・統計的方法を用いて推進するとともに、その研究の普及、研究者相互の交流を促進し、かつ、外国の研究団体との連絡を図ることを目的とする。
4. 本会は前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。
 - (1) 研究発表会・講演会・シンポジウムの開催
 - (2) 会誌・図書および資料の刊行

- (3) 外国の関連学会との連絡および協力
 - (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- [会員]

5. 本会の会員は次のとおりとする。
 - (1) 正会員…第3条にあげた研究に従事する者またはそれに関心を有する者
 - (2) 学生会員…大学の学生（大学院をふくむ）あるいはこれに準ずる者
 - (3) 賛助会員…本会の目的に賛同し、その事業に財政的援助をする者または団体
6. 本会に正会員または学生会員として入会しようとする者は、正会員1名の紹介により、理事会の承認を受けなければならない。
7. 会費として正会員は年額10,000円、学生会員は5,000円、賛助会員は一口10,000円以上を毎年1月末日までに納入しなければならない。ただし、国際計量生物学会からの機関誌Biometricsの送付を希望しない者の会費は、正会員・学生会員とも年額4,500円とする。
8. 会費を2年以上滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことができる。
9. 会員はつぎの特典を受ける。
 - (1) 本会が刊行する会誌および資料の配布を受けること
 - (2) 本会の行う事業の通知を受けこれらに参加すること
 - (3) 会則及び別に定める規則により、本会役員の選挙権および被選挙権を有すること
 - (4) 国際計量生物学会の機関誌Biometricsを年4回受領する（ただし前記7のただし書きに該当する者は除く）
- [役員]
10. 本会に次の役員を置く。
 - (1) 理事若干名、うち1名を会長とする
 - (2) 監事2名
11. 理事および監事は正会員のなかから選任する。役員を選任方法については総会で定める。会長は理事会において互選する。
12. 会長は本会の業務を総理し、理事会の議長となり、また本会を代表する。理事は理事会を組織し、総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。理事のなかから庶務担当・会計担当および編集担当をそれぞれ1名選任する。

13. 本会の役員の任期は2年とし再選を妨げない。ただし、会長は連続して2期4年を越えることはできない。

14. 役員に欠員を生じたときは、理事会の議決により後任を補充することができる。後任者の任期は前任者の残りの期間とする。

[会議]

15. 本会の会議は総会と理事会とする。総会は通常総会と臨時総会とする。総会は正会員・学生会員および賛助会員のなかの個人会員をもって組織する。理事会は理事をもって組織する。

16. (1) 通常総会は毎年1回4月に会長が招集する。

(2) 臨時総会は理事会または監事が必要と認めるとき、会長が招集する。また、会長は正会員の10分の1以上から会議の目的を記載した書面による請求があったときは、これを招集しなければならない。

(3) 通常総会を招集するには少なくとも6週間以前に、会議の目的である事項、日時および場所を記載した書面をもって会員に通知しなければならない。

17. 通常総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は出席正会員の互選によって定める。

18. 総会はこの会則で定めるもののほか、次の事項について議決する。

(1) 事業計画および収支予算についての事項

(2) 事業報告および収支予算についての事項

(3) その他本会の運営に関する重要な事項

19. (1) 総会は正会員現在数の5分の1以上の者が出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき、あらかじめ書面をもって意思を表示した者または表決の委任者は出席者とみなす。

(2) 総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

20. 理事会はこの会則に定めるもののほか、次の事項について議決する。

(1) 総会に提案すべき事項

(2) 会務の執行に関する事項

(3) その他会長が必要と認めた事項

[会則の変更および解散]

21. 本会則の改正には総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

[補則]

1. 本学会は国際計量生物学会IBSの日本支部を兼ねる。会長、庶務理事、会計理事はそれぞれ同支部のPresident, Secretary, Treasurerを兼務する。

2. IBSのCouncil memberは本学会の理事に就任する。

3. 1996年度の会費は現行のままとし、上記7の会費は1997年度より施行する。

(正会員10,000円、学生会員5,000円)

日本計量生物学会役員選出に関する細則

(総則)

1. 本会の役員を選出、および委嘱等は会則のほか、この細則の決めるところによる。

2. 理事の定数は、当分の間20名以内とする。ただし、そのうちの15名の選出は正会員の選挙による。ほかは選挙後の当選人による連絡会議に於て必要に応じて推薦により追加するものとする。

3. 監事は2名とし、選出は正会員の選挙による。ただし、理事は監事を兼ねることができない。

4. 会長、庶務理事、会計理事は理事会が理事の中から互選し、総会の承認を経て選出する。

5. 各種委員会の委員は、理事会において委員長を理事の中から委嘱し、他は正会員の中から選考し、委嘱する。

6. 役員の任期は、1月1日から12月31日までの2年間とする。ただし、中途就任の役員の任期は、就任の日から前記の期間とする。

(理事および監事の選挙)

7. 理事および監事は、郵送による無記名投票によるものとする。

8. 選挙を公正、かつ円滑に進めるために、選挙管理委員会を設置し、その管理下で実施する。

9. 理事および監事の選挙人と被選挙人は、選挙年の10月1日現在、正会員であるものに限る。

10. 選挙方法等は、選挙管理委員会内規として別に定める。

(当選者の就任)

11. 理事および監事に当選したものは、原則として就任を辞退できない。

(追加理事の推薦)

12. 理事の当選人は選挙直後に連絡会議を開催し、必要に応じて推薦理事5名以内を選出することができる。

13. 推薦理事の選出は、会則の補則2条によるものの他は、当選理事の専攻分野と地域性等を配慮して行う。

(三役の選出)

14. 会長、庶務理事、会計理事の選出は、選挙後の第1回理事会で選出する。ただし、理事会における選出方法は出席理事（委任状提出者も含む）の互選による。

日本計量生物学会選挙管理委員会内規

1. 選挙管理委員会（以下、委員会）は、理事会が正会員の中から委嘱する委員長1名、委員1名により構成される。

2. 委員会は、選挙日程（投票締切日、開票日など）、選挙人および被選挙人の資格条件等を決定し、有資格の正会員に告示し、選挙を実行する。

3. 投票は、郵送による無記名投票とし、委員会が定めた投票用紙により、理事3名、および監事1名を投票する。

4. 所定の用紙以外による投票や、差出人（投票者）の氏名を記した投票は無効とする。

5. 投票用紙の送付に際しては、以下の事項を含む文書を選挙人の便に供するため添付する。

(1) 選挙人および被選挙人の資格、投票の郵送先、投票締切日、投票の有効性などの概要

(2) 被選挙人名簿

(3) その他、委員会が必要と認める事項

6. 開票作業は、選挙管理委員会が行う。

7. 当選人の決定は、以下の規則に従うものとする。

(1) 理事は、有効投票の最多数の得票者から順に上位15名を当選人とする。

(2) 監事は、有効投票の最多数の得票者から順に、理事の当選人以外の上位2名を当選人とする。

(3) 理事、監事の当落の境界に同数の得票者があり、定数を越える時は、委員会が抽選で選ぶ。

(4) 当選人の決定に関して疑義が生じた場合は、そのつど委員会に於いて決定する。

8. 開票後、委員会は当選人に当選の旨をすみやかに通知する。また、委員長は、理事会に対して

以下の報告書を提出する。

(1) 投票締切日、開票日時および場所

(2) 有権者総数、有効投票人数、無効投票人数、有効記名数

(3) 理事、監事の当選人の氏名、得票数の一覧表

9. 委員会の任務は、当選人への通知と理事会への報告書提出をもって終わりとする。

日本計量生物学会被選挙人名簿 (1996年10月1日現在)

相沢 淳	エムジエン(株)
青柳 誠	ファルマシア(株)
赤澤 宏平	九州大学医学部付属病院医療情報部
浅井 晃	渋谷区
浅井 清朗	名古屋経済大学法学部
浅野 弘明	京都府立医科大学医療短大部
安達 毅	日本臓器製薬(株)
安達 健	EPS(株)
安部 一郎	立教女学院短期大学
天野 秀紀	(財)東京都老人総合研究所
有田清三郎	関西医科大学教養部
安藤 聡美	ローヌ・プーラン ローラー(株)
安藤 正一	山之内製薬(株)
安楽 和夫	西南学院大学文学部
井 洋一	ファイザー製薬(株)
飯田 一郎	(株)小林コーセー研究所
飯塚 悦功	東京大学工学部
池田 正人	産業医科大学産業保健経済学教室
石井 丈夫	相模原市
石川 和明	バイオスタット(株)
石栗 秀	日本甜菜精糖(株)清水工場
石塚 直樹	クインタイルズ・アジアインク
石野 得三	山之内製薬(株)
伊津野 孝	東邦大学医学部
和泉志津江	(財)放射線影響研究所
伊豆本 透	サンド薬品(株)
伊藤 孝一	南山大学
伊藤 博之	ファイザー製薬(株)
伊藤 要二	大塚製薬(株)
稲垣 宣生	大阪大学基礎工学部
稲田 紘	国立循環器病センター研究所
稲田 充男	豊橋創造大学

猪原 正守	大阪電気通信大学	越智 義道	大分大学工学部
井本 精一	(株)化合物安全性研究所	斧田太公望	つくば市
井山 審也	University of Cairo	折笠 秀樹	富山医科薬科大学医学部
祝前 博明	新潟大学農学部		
岩崎 正和	バイエル薬品(株)	鍵村 達夫	日本ペーリンガーインゲルハイム(株)
岩崎 学	成蹊大学工学部	景山 三平	広島大学学校教育学部
岩元 和正	日本商事(株)	柏木 涉	大鵬薬品工業(株)
岩本 光司	ミドリ十字(株)	片山 和夫	塩野義製薬(株)
郎 宏藩	Institute of Botany Academia Sinica	加藤 順	佐久市
		門山 允	東京国際大学商学部
上坂 浩之	ヘキスト・マリオン・ルセル(株)	金澤雄一郎	筑波大学社会工学系
上原 秀昭	(株)ツムラ	金森 雅夫	東邦大学医学部
上村 一夫	流通経済大学	金藤 浩司	統計数理研究所
上村 賢治	東京大学農学部	鎌倉 稔成	中央大学理工学部
魚井 徹	山之内製薬(株)	神尾 正巳	東京慈恵医科大学
鷓飼 保雄	東京大学農学部	萱沼 康	山之内製薬(株)
浦狩 保則	塩野義製薬(株)	河村 徹郎	鈴鹿医療科学技術大学
江口 真透	統計数理研究所	河井 浩	鐘紡(株)
大石 正平	科研製薬(株)	川島 宏	山之内製薬(株)
大石 雅彦	ファイザー製薬(株)	管家 英治	宇都宮大学農学部
大内 幹夫	サントリー(株)	管野 隆三	東京歯科大学
大隅 昇	統計数理研究所	菊池 圭一	ブリストル・マイヤーズ スクイ ブ(株)
大瀧 慈	広島大学原医研		
大竹 正徳	岡山大学環境理工学部	菊地 正悟	順天堂大学医学部
大塚 雍雄	新潟大学農学部	岸野 洋久	東京大学教養学部
大塚 芳正	特別養護老人ホーム「すどの杜」	絹川 直子	九州大学医学部
大槻 成章	呉羽化学工業(株)	木船 義久	武田薬品工業(株)
大槻 徹	住友製薬(株)	木村 清郎	津市
大野 長壽	大正製薬(株)	清見 文明	ヘキスト・マリオン・ルセル(株)
大橋 靖雄	東京大学医学部	浄住 勤慈	大日本製薬(株)
岡 健司	(株)日本海洋生物研究所	楠 正	東京大学医学部
緒方 裕光	国立公衆衛生院	工藤 昭夫	兵庫大学経済情報学部
尾形 良彦	統計数理研究所	工藤 孝英	小野薬品工業(株)
岡本 朋子	大塚製薬(株)	熊谷 明夫	東京田辺製薬(株)
岡本 直幸	神奈川県立がんセンター臨床研究所	熊澤 蕃	日本原子力研究所
丘本 正	追手門学院大学経済学部	隅本 秀樹	枚方市
小川 幸男	日本モンサント(株)	栗木 哲	統計数理研究所
小川 紀男	北陸農業試験場	栗林 和彦	塩野義製薬(株)
奥 喜正	流通経済大学流通問題研究所	栗原 律子	エーザイ(株)
奥住 幸雄	アッパシオンファーマシューティカルズリミテッド(株)	巖 浩	EPS(株)
奥野 忠一	東京理科大学経営学部	甲田 茂樹	高知医科大学
小澤 賢一	キッセイ薬品工業(株)	河野 和正	久留米大学商学部
尾島 善一	東京理科大学理工学部	河本 綏雄	東京理科大学諏訪短期大学
織田健次郎	農業環境技術研究所	越水 孝	バイエル薬品(株)

小谷 孝一	東京理科大学理工学部	下郷 雅美	ノボノルディスク ファーマ(株)
後藤 浩司	ローヌ・プーラン ローラー(株)	庄武 孝義	京都大学霊長類研究所
後藤 昌司	大阪大学	正法地孝雄	広島大学総合科学部
後藤みづみ	吉富製薬(株)	白石 高章	横浜市立大学文理学部数学教室
小西 貞則	九州大学	白石 安男	東京理科大学経営学部
小林 康毅	筑波大学社会医学系	白岩 直人	バイエル薬品(株)
小林 龍一	桃山学院大学	白木原国雄	三重大学生物資源学部
駒澤 勉	統計数理研究所	金 明哲	札幌学院大学
小松 勇作	新宿区	新谷 茂	(財)日本中毒情報センター
米虫 節夫	近畿大学農学部	新藤 純子	農業環境技術研究所
小山 武信	和歌山県衛生公害研究センター	神保 武夫	UNESCO
近藤 貞昭	野菜・茶業試験場	須川 和明	北星学園大学経済学部
近藤 久義	長崎大学医学部	杉浦 成昭	筑波大学数学系
		杉田 稔	東邦大学医学部
齋尾乾二郎	品川区上大崎	杉森 俊彰	日本アイ・ビー・エム
斉藤 弘	第一製薬(株)	杉山 高一	中央大学理工学部
酒井 清六	大東文化大学	鈴木 和幸	電気通信大学
酒井 弘憲	三菱化学(株)	鈴木義一郎	統計数理研究所
坂口 紘治	九州大学経済学部	鈴木 茂	つくば市
佐久間 昭	浦和市	鈴木 智子	新宿区
佐々木秀雄	旭化成工業(株)	鷺見 裕	栄研化学(株)
佐々木義之	京都大学農学部	陶山 昭彦	鳥取大学医学部
佐藤 邦弘	日本化学工業(株)	関 利之	ワイス・エーザイ(株)
佐藤 喬俊	クインタイルズ・アジアインク	惣田 隆生	塩野義製薬(株)
佐藤 俊哉	統計数理研究所		
佐藤 昇	ファイザー製薬(株)	高木 廣文	統計数理研究所
佐藤 学	広島大学工学部	高津 順吉	大洋漁業(株)
佐藤 義治	北海道大学工学部	高野 泰	東京大学農学部
澤 淳悟	シェーリング・プラウ(株)	高橋 秀人	筑波大学社会医学系
塩谷 実	明星大学	高橋 秀之	バイエル薬品(株)
塩見 正衛	茨城大学理学部	高橋 行雄	日本ロシュ(株)
繁榊 算男	東京大学教養学部	滝沢 博	協和発酵工業(株)
篠崎 信雄	慶応義塾大学理工学部	田栗 正章	千葉大学理学部
柴田 信明	岩手大学農学部	竹内 公男	新潟大学農学部
柴田 和博	北海道テクノロジー専門学校	竹内 啓	鎌倉市
柴田 義貞	(財)放射線影響研究所	竹澤 邦夫	北陸農業試験場
渋谷 政昭	高千穂商科大学	竹綱 正典	田辺製薬(株)
島崎 茂樹	三菱化学(株)	田崎 武信	塩野義研究所
島田 公	ゼネカ(株)	龍原 哲	東京大学農学部
嶋津 靖彦	水産庁研究課	田中 和哲	(株)ミドリ十字
島村 正道	熊本大学医療技術短期大学部	田中 純子	広島大学医学部
清水 邦夫	東京理科大学理学部	田中 卓	広島大学原医研
清水 秀史	三井製薬工業(株)	田中 健	(株)日本科学技術研修所
志村 健一	琉球大学法文学部	田中 豊	岡山大学教養部

種村 正美	統計数理研究所	西脇 茂利	(財)日本鯨類研究所
玉井 康治	(株)CRC総合研究所	二宮 正士	農業環境技術研究所
田宮 高紀	東京理科大学理工学部	野口 千明	東京大学医学部
田村 義保	統計数理研究所	野沢 昌弘	東京理科大学経営学部
垂水 共之	岡山大学教養部	野村 哲郎	京都産業大学工学部
丹後 俊郎	国立公衆衛生院		
辻谷 將明	大阪電気通信大学	拝野 克行	日本シェーリング(株)
津田 義和	立教大学一般教育部	芳賀 敏郎	東京理科大学工学部
津谷喜一郎	東京医科歯科大学難治疾患研究所	袴田 共之	農業環境技術研究所
椿 美智子	電気通信大学	橋本 修二	東京大学医学部
椿 広計	慶應義塾大学理工学部	橋本 哲男	統計数理研究所
坪田 邦広	メディテックインターナショナル(株)	橋本 敏夫	吉富製薬(株)
坪田 信孝	広島大学医学部	長谷川政美	統計数理研究所
出村 政嗣	大日本製薬(株)	秦 正弘	鳥居薬品(株)
寺尾 哲	武田薬品工業(株)	畑村 又好	文京区
寺嶋 達雄	参天製薬(株)	鳩山由紀夫	衆議院議員
寺西 孝司	塩野義製薬(株)	馬場 光正	帝国化学産業(株)
土岐 恵美	萬有製薬(株)	馬場 康維	統計数理研究所
徳永 修	吉富製薬(株)	浜田知久馬	東京大学医学部
戸田 修二	エムディエス(株)	早川 式彦	広島大学原医研
百々 秀夫	大日本製薬(株)	林 邦彦	群馬大学
富沢 貞男	東京理科大学理工学部	林 知己夫	三鷹市
朝野 芳郎	エーザイ(株)	樋口伊佐夫	帝京技術科学大学
富田 栄一	中外製薬(株)	兵頭 義史	岡山理科大学理学部
		平岡 政隆	広島大学原医研
永井 武昭	大分大学工学部	平河 威	三井製薬工業(株)
永井 正規	埼玉医科大学	広岡 秀樹	山之内製薬(株)
中島 栄二	放射線影響研究所	広岡 博之	龍谷大学経済学部
永田 久紀	武庫川女子大学家政学部	廣津 千尋	東京大学工学部
中田 雅臣	アストラジャパン(株)	福富 和夫	練馬区
長谷 文雄	ヘキスト・マリオン・ルセル(株)	藤井 良宣	宮崎大学教育学部
永見 俊之	日本農薬(株)	藤川 裕之	明治製菓(株)
中村 和雄	農業研究センター	藤越 康祝	広島大学理学部
中村 剛	長崎大学医療短期大学	藤田正一郎	放射線影響研究所
中村 典裕	秋田県立農業短期大学	藤田 利治	国立公衆衛生院
中村 靖彦	ソルベイ明治薬品(株)	伏見 正則	東京大学工学部
永谷 憲司	日本イーライリリー(株)	舟喜 光一	持田製薬(株)
鳴島 睦子	(株)アジャスト	古川 敏仁	(株)エスアールエル
西 晃央	佐賀大学教育学部	古川 俊之	国立大阪病院
西 次男	クインタイルズ・アジアインク	逸見 功	東京都神経科学総合研究所
西尾 敦	明治学院大学経済学部	細萱 茂実	山梨医科大学医学部
西岡 孝彦	信州大学繊維学部	細野 泰彦	武蔵工業大学
西川 匡英	森林総合研究所	本田 純久	長崎大学医学部
西川 浩昭	東邦大学医学部公衆衛生学教室	本多 正幸	千葉大学医学部

前田 博	藤沢薬品工業(株)	山田 剛久	森永乳業(株)
前田 玲	長岡京市	山村 光司	農業環境技術研究所
牧野 国義	都立衛生研究所	山本 英二	岡山理科大学
牧野 弘志	第百生命保険相互会社	山本 和子	島根医科大学医学部
松井 研一	東邦大学医学部	山本 純恭	国際自然科学研究所
松浦 正明	広島大学原医研	山本精一郎	国立がんセンター研究所
松岡 浄	藤沢製薬工業(株)	横田 嘉彦	江東区
松沢 照男	北陸先端科学技術大学院大学	横山 英明	自治医科大学
松原 義弘	塩野義製薬(株)	吉川 敬	N T T(株)
松宮 義晴	東京大学海洋研究所	吉澤 正	筑波大学大学院
松村 康弘	国立健康・栄養研究所	吉田 彰夫	日本化薬(株)
松本 幸雄	国立環境研究所	吉田 道弘	武田薬品工業(株)
三浦 幹彦	信州大学繊維学部	吉村 功	東京理科大学工学部
三上 俊明	日本オルガノン(株)	米澤 勝衛	京都産業大学国土利用開発研究所
光森 達博	鐘紡(株)	林 燦隆	National Taiwan University
三中 信宏	農業環境技術研究所	和田 武夫	武田薬品工業(株)
南 美穂子	東京理科大学理学部	和田 康彦	農水省畜産試験場
宮井 俊一	東北農業試験場	渡辺 敏彦	科研製薬(株)
宮井 正弥	姫路独協大学一般教育学部	渡辺 則生	中央大学理工学部
宮入加寿也	サントリー(株)	渡邊 裕之	帝人(株)
宮岡 悦良	東京理科大学理学部	汪 金芳	統計数理研究所
宮川 強	東京理科大学理工学部		
宮川 三郎	北陸農業試験場		
宮北 誠	国立栃木病院		
三輪 哲久	農業環境技術研究所		
桃川 聖司	日本新薬(株)		
盛 昭雄	東レ(株)		
森尾 真介	鳥取大学医学部		
森川 敏彦	武田薬品工業(株)		
守屋 和幸	京都大学農学部		
矢島 敬二	東京理科大学経営学部		
柳井 晴夫	大学入試センター		
柳川 堯	九州大学理学部		
柳本 武美	統計数理研究所		
矢船 明史	北里研究所		
山内 平介	大日本製薬(株)		
山岡 和枝	帝京大学法学部		
山口 直人	国立がんセンター研究所		
山口 行治	ダイセル化学工業(株)		
山崎 直樹	武田薬品工業(株)		
山崎 秀夫	東京都立大学理学部		
山田作太郎	東京水産大学		

第4回計量生物セミナーのお知らせ

第4回計量生物セミナーを下記の要領で開催いたします。セミナーの詳細および申し込みは別紙を参照してください。

1. 日 時：1996年11月9日（土），10日（日）
2. 場 所：富士教育研修所（静岡県裾野市）
3. 参加費：宿泊費，食費含む
臨床の部，企業30,000円，
大学・研究機関15,000円
生物の部 15,000円
4. テーマ：
生物の部「分子系統樹と生物進化」
臨床の部「臨床検査値の諸問題」

関連学会等のお知らせ

第55回日本公衆衛生学会

日時：1996年10月30日～11月1日

場所：大阪厚生年金会館他
テーマ：21世紀の地域保健
連絡先：第55回日本公衆衛生学会総会事務局
大阪府環境保健部健康増進課内
TEL 06-944-0624
FAX 06-941-6606

医学・生物学データの統計モデル：理論と応用 科研費シンポジウム

日時：1996年12月5日～7日
場所：富山観光ホテル
連絡先：折笠秀樹
TEL 0764-34-5182
FAX 0764-34-5184

日本学術会議関係報告

1. 第4部夏期部会

1996年7月2日（火）～3日（水）に岐阜県の東濃研究学園都市で開催され、多くの議題が審議されたが、ここでは統計学に関連したものを中心に報告する。

○研究連絡委員会の見直しについて

研究連絡委員会の数が多いこと（特に第4部）と、新しい研究連絡委員会の設置に対して柔軟に対応出来るようにということで、第1常置委員会から検討用資料が提出された。これによると「統計学」については、数学研究連絡委員会のもとの統計学専門委員会とされている。これは不都合と考え、早速独立した研究連絡委員会につてほしい旨修正要望書を出した。第4部関係ではこの案に対して、基本的な考え方からして不満が多く、かなりの意見が出されると思われる。

○国立計算科学高等研究所の設立について

情報学研究連絡委員会を中心に構想が検討され、第4部会でも今回を含めて数回検討した。他の研究機関の協力等の可能性もあり、何らかの形で実現性もあり、第4部会では更に進めることとした。

○「資料の紙質の劣化についての要望（案）」、「著作物再販制度の在廃問題について（要望

（案）」、「パラダイムの転換を中心とする学術の動向について」の検討等。

2. 統計学研究連絡委員会

第16期第7回会合を1996年7月22日（月）に開催した。

○統計関連学会の懇談会で検討をすすめている共同事業としての、インターネットによるニュースの速報、共通名簿、事務局の共同運営の可能性等、について報告があった。

○統計学の研究教育体制の整備

大学における各分野での統計の教育とその体制についていくつかの案をもとに検討した。各分野が統計の授業に何を期待しているのかの調査の必要性や統計数値の意味を教育することの必要性等の意見が出された。

次に後継者養成に関して、地域ごとに単位互換制度を活用する方式等の提案をもとに検討した。また統計手法を用いる各分野への研究者等へのコンサルテーション組織の確立の必要性の意見が出された。

藤井 光昭（日本学術会議会員 第4部）

1996年度 第3回理事会議事録

日 時：1996年6月28日（金）18:00～20:10

場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

出席者：駒澤（会長）、高木（庶務）、魚井（会計）、上坂、鵜飼、佐藤（喬）、佐藤（俊）、正法地、丹後、椿、林（以上、理事）、竹網（セミナー企画）、栗原（事務局）

議 題：

1. 前回議事録の確認

前回議事録を若干の字句修正後、承認した。

2. 合同年次大会会計報告

本年度の合同年次大会の出席者は、会員171名、非会員76名、学生20名、合計267名の参加があり、収支は約17万円の黒字であったと魚井理事から報告があった。正式な決算報告は、次回以降の連絡委員会および理事会で行う予定である。

3. 第4回計量生物セミナーについて

臨床医学系は、「臨床検査値の諸問題」というテーマで、検査における計量、標準化、正常範囲の問題などを主に扱い、生物系は、「分子系統樹と生物進化」というテーマで行う。

なお、生物系のセミナー参加者は、学術関係者と企業関係者の参加費を区別なく同一とすることにした。

講師には、交通費と宿泊費などの実費を支給するが、講演料などは支払わないこととし、あらかじめ講師依頼時にその旨伝えてから、了承を得ることとした。

7月号のニュースレターにセミナーの案内を掲載するため、上坂理事・竹網氏に臨床医学系の、鵜飼理事に生物系のセミナーの紹介を書いてもらうこととした。

4. 統計関連学会の懇談会について

椿理事より、懇談会で現在討議されている問題、(1) インターネットによるニュースの速報、(2) 共通名簿の作成、(3) 共通事務局、について説明がなされた。

共通名簿の作成と共通事務局については、数種の提案がなされているが、今後も継続的な討議が必要である。

インターネットによるニュースの速報については、すでに統計数理研究所の共同研究としてホームページが作成されている。本学会がこの計画に協力できるかとの問い合わせがきており、これに対しては協力できる旨、回答することになった。ただし、次年度から理事が変更となるので、当面は椿理事が本件の担当となるが、理事選挙後に再度、この問題については検討することにした。また、統計関連学会に関するインターネット利用は、本来学術会議が整備すべきことであるとのことから、統計学連絡委員会が学術会議に働きかけるように要請することにした。これらの点については、回答文書に意見として記載することにした。

5. その他

・雑誌の編集状況について上坂理事から報告がなされた。昨年セミナーについては、生物系は原稿が揃ったところであり、臨床医学系はテープ起

こしの段階とのことである。また、現在投稿は3編あり、年度中に2号出版する予定とのことである。

・事務局から本部に会費を送金したとの報告があった。

庶務担当理事 高木廣文

会計理事からのお知らせ

1996年度の会費の納入をお願い致します。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1-12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。本学会の運営を健全にするためにも、これまでに会費を未納にしている会員は、本年分と合わせ至急会費をご納入下さるようお願い致します。1997年度より会費が変わります。ご注意ください。

開発途上国援助のための「特別会費」は、会費に2,000円上乗せをお願いします。なお、特別会費を送金される場合にも通常の会費納入口座を利用し、特別会費であることを通信欄に明記して下さい。詳しくは、ニュース・レターNo.48巻頭言をご覧ください。

会費	1996年度	1997年度
A会員	3,500円	4,000円
B会員	8,000円	10,000円
C会員	4,500円	5,000円
特別会費*	2,000円	2,000円

*A, B, C会員会費に2,000円上乗せして下さい。

A会員：Biometricsを購読しない正会員

B会員：Biometricsを購読する正会員

C会員：学生会員（Biometricsを購読する）

郵便振替口座：

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

第一勧業銀行飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会
または、
三和銀行 飯田橋支店
普通 624-3596166
日本計量生物学会

会計担当理事 佐藤喬俊, 魚井 徹

事務局からのお知らせとお願い

銀行振込で会費を納入していただく場合、機関名が長いと会員名が切れてしまい、どなたからのお振り込みか、事務局では分からなくなることがあります。銀行振込の際には、必ず会員名を先頭にしてください。

学会への連絡、問い合わせ等は手紙またはFAXで下記事務局までお願いします。また、所属、連絡先等に変更のあった会員の方は、事務局まで御一報下さい。

ニュース・レター編集委員会からのお願い

編集委員会では会員からの原稿を募集しています。国内・国外での関連学会への参加報告や印象記、海外での研究・活動状況などの報告を歓迎します。

ニュース・レターに掲載されているBiometrics掲載論文の日本語サマリー作成は、会員の方々のボランティア活動におすがりしています。編集委員会から翻訳の依頼がありましたら、ご多忙中とは思いますが、御協力をよろしくお願い致します。

私は、選挙管理委員の橋本修二先生に禁煙させる会の会長を務めています。私は口頭による同意の取得は認めていませんので、もちろん橋本修二先生ご本人から文書にて同意をいただいて活動しています。今年中に禁煙させることを目標にしているのですが、橋本修二先生は意志が弱く、なかなか禁煙にいたりません。そこで「橋本修二先生を禁煙させる会」の活動に賛同していただける皆さんにお願いがあるのですが、研究会などで橋本修二先生をみかけましたら、「もうタバコはやめましたか」と一言かけてください。もし、橋本修二先生がちょうどタバコを吸っているところでしたら、「まだタバコを吸っているの」でも結構です。また、ニコチンパッチやニコチンスプレーなど禁煙を目的とした臨床試験を実施している製薬メーカーの方は、ぜひ橋本修二先生に生物統計家として試験に参加していただくか、あるいは対象者として試験に参加させてあげてください。

このような地道な草の根運動は、いつかきっと実を結ぶと期待しています。

日本計量生物学会事務局
〒106 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所駒澤研究室内
FAX 03 (3446) 1695
栗原恵美子

編集委員会 越智義道, 佐藤俊哉, 林 邦彦
〒106 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 (佐藤)
TEL 03 (5421) 8764
FAX 03 (3446) 1695